

第14回ROBO-ONEレポート & 第15回ROBO-ONE展望

2008年10月11日～12日、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜で開催されていたパートナーロボット展『ROBO_JAPAN』内にて、二足歩行ロボット格闘競技会『ROBO-ONE』第14回大会が開催された。

特別
枠
みきお

ROBO-ONEは(株)ベストテクノロジーの登録商標です。



予選デモンストレーション

今大会には114チームがエントリーし、参加資格審査を通過して予選に登場したのは45チーム。前回に続いて特別に2分間バージョンに編集されたinfix『ACTIVE BOY』をBGMにしたダンスが規定演技とされたが、今回はその中に規定動作として「3連続回転ジャンプ」を取り入れることを求められた。

前大会ではあまり見られなかった「音楽にタイミングを合わせてスタートする」というデモンストレーションが増えたほか、歌詞の内容にあわせた動きをする(例えば“倒れても立ち上がる……”という部分で起き上がりのモーションを行う)ロボットが複数登場していたのは、より「エンターテインメントらしい」デモンストレーションを参加者が意識した結果の、目に見える進化だったように思えた。

一方、規定演技や規定動作をこなすことに時間がとられてしまい、2分間の中で“+α”を盛り込む参加者が少なくなったように見受けられた。次々と出てくるロボットが足踏みとジャンプばかりを繰り返すのは、あまり楽しいデモではないだろう。ROBO-ONE GPなどに参加している、上位をにぎわす“常連”たちのデモは、そういった“+α”を意識して組み込んでいた。

予選の総合1位は、3機を同期させたダンスを見せた「キングカイザー」(マルファミリー)。複数のロボットを登場させる手法は過去にもいくつかのチームが採用していたが、ロボット同士が連携しているケースは珍しい。相互通信ではなく、中央の「グレートキングカイザー」を司令塔に、

ダンスのポイントを無線で指令を飛ばしていたようだ。ズレないようにモーションを作るのではなく、わざわざいったんずらしたダンスが途中でピンッと揃うように作ったのだという。

決勝トーナメント

予選を通過したのは、軽量級9機と重量級14機。ここに各地の「決勝出場権認定大会」で認定権を獲得したロボットがそれぞれ7機と2機加わり、16機ずつの決勝トーナメントが行われた。

軽量級は、『RoBo ☆ CHAMP ベイシティ杯』で認定権を獲得した「Cavalier」(えまのん)が60cmという上背の高さと、そこから得られるリーチの長さを最大限に活かし、第11回ROBO-ONE以来の優勝を目指した「ヨコヅナグレート不知火2代目」(Dr.GIY)を決勝戦でも圧倒。初優勝を決めた。

「勝てるロボット」にこだわって作ったという「Cavalier」は、格闘に有利なリーチを確保できる体格を保ちながら3kg以下にするために、サーボモーターを多く使用しがちな足部分に平行リンク機構を採用。ほとんどのサーボモーターを腰上に集中させたという。また、一般的にはA5052などのアルミ材が使用される構成材にマグネシウム合金を利用。重心規定もあり、製作にはかなり苦労があったようだ。

重量級では前回総合優勝の「キングカイザー」が、時折ダウンを奪われる場面もあったものの、決勝に進出。一方、今回多数参加した大型機が集中した山を勝ち抜い



軽量級予選1位「HAUSER」(クラフトマン)。歩行などの基本的な動きの安定度と「なるべく意識した」という大きな動きが評価されたようだ。



重量級 & 予選総合1位「キングカイザー」(マルファミリー)。一番右の「グレート」が重量級に出場。あとの2機はバックダンサー。



インドから参加した「Acyut」(Team Acyut)。元々は米国の「ROBOGAMES」でROBO-ONEのことを知ったという。スロープは上れなかったが、特別枠でデモを行った。